

<海外教育学会紹介>

スイスにおけるペスタロッチー研究の新しい動向

鈴木 由美子*

1996年1月14日、スイス・チューリヒにあるシャウシュピール劇場で、ペスタロッチー生誕 250 年記念式典が盛大にとりおこなわれた。筆者もこの記念式典に出席し、スイスの人々の情熱にふれ、深く感動した。この記念式典を皮切りに、今年度スイスでは、まる 1 年間ペスタロッチーを記念する行事が予定されている。この点を見ても、今なおスイスにおいてペスタロッチーの影響が大きなものであることが理解される。

ところで、現在スイスではペスタロッチー研究に新たな動向が生まれており、今回の記念祭ではそれがあますことなく示されている。ここでは、チューリヒ大学主任助手、ペスタロッチーアーヌム研究協力者であり、“Neue Pestalozzi-Blätter” ならびに “Neue Pestalozzi-Studien” の編集者でもあるトレーラーの見解¹⁾を中心にして、スイスにおける研究動向について報告したい。

1. スイス国内でのペスタロッチー研究の特徴

トレーラーによれば、スイスにおけるペスタロッチー研究は、次の 3 点において特徴づけられる。第 1 に、19 世紀においては、ペスタロッチーの人間像と教育学の受容が中心であること、第 2 に、ペスタロッチーの死後 (1827 年) まもなくペスタロッチーの偶像化が生じていること、第 3 に、1980 年代後半から、受容史的かあるいは影響史的な角度からのペスタロッチー理解がはじまっていること、である。トレーラーは、1980 年代にペスタロッチー研究にひとつの転回があり、ペスタロッチーを無条件に賛美する時代は終わったという。「とりわけ政治的、社会的、経済的、哲学的かつ宗教的・神学的文脈を、ペスタロッチーの人生と業績について考慮に入れること」が重視され、「それとともにペスタロッチーの影響史を批判的に再考する傾向がはじまった」。こうした転回とともに、ペスタロッチーを新たに解釈する可能性が生じている。この新しい徴候についてトレーラーは次

の 8 点を挙げている。

2. 新しいペスタロッチー研究の徴候

- ①マルチンによる詳細な影響史的研究があげられる²⁾。これは 19 世紀のバーゼルランドシャフト州におけるペスタロッチーの遺産を研究したものである。
- ②1987 年にベルン大学で「ペスタロッチーの遺産——ペスタロッチーの崇拜者に対する弁護」というタイトルで開催された国際シンポジウム³⁾。これはペスタロッチー研究における転回のはじまりと位置づけられている。
- ③1988 年に第 1 巻、1993 年に第 2 巻が公刊されたシュタッドラーによるペスタロッチー伝⁴⁾。この関連で、オスターヴァルダールによる 19 世紀におけるペスタロッチーの影響史に関する研究⁵⁾、ならびに 1996 年に刊行予定のヴァインターによるスイスにおけるペスタロッチー祭の歴史に関する労作⁶⁾があげられる。
- ④ペスタロッチーアーヌムの新しい研究機関紙、“Neue Pestalozzi-Blätter” の創刊 (1995 年)。
- ⑤批判版全集を、著作シリーズ、書簡シリーズ、新シリーズ (ペスタロッチーあての書簡を集めたもの) という 3 つのシリーズにおいて完成する研究プロジェクトの発足。批判版全集は 1996 年に、新シリーズは 1999 年までに完成予定である。
- ⑥ “Neue Pestalozzi-Studien” の発刊。
- ⑦1996 年にチューリヒ大学でおこなわれた学術シンポジウム。ペスタロッチーについての影響史的観点が中心であった。シンポジウムの一部は、“Neue Pestalozzi-Studien” 第 4 巻 (1996) で編集出版される予定である。
- ⑧ドイツ語圏でのペスタロッチー研究に関するふたつの成果。それはまず第 1 に、批判版著作全集ならびに書簡全集の索引版 (2 巻) 第 1 巻の発刊⁷⁾ であり、ペスタロッチー全集の CD-ROM の発刊⁸⁾ である。

3. 今後の展望

現在スイスにおいて注目されているのは、フランス語

*すずき ゆみこ 広島大学

圏におけるペスタロッチー研究の発展である。1977年に設立されたイヴェルドン・ペスタロッチー資料研究センターが中心となって、ペスタロッチーの著作のフランス語への翻訳がすすめられている。とくに、ミカエル・ソエタールによる翻訳やペスタロッチー研究書の出版が注目されている。

これとならんで注目されるのは、ペスタロッチーのテキスト内在的研究とともに、影響史的研究を中心としてペスタロッチーの新しい解釈が進められていることである。これまで、「ペスタロッチーに関する学問的・哲学的とりくみと、彼の偶像化ならびに道具としての利用との境界が、けっして明確ではなかった」ことからくるペスタロッチー研究の問題は、影響史的研究の進展により解決の糸口をつかもうとしている。

トレーラーは、以上述べたペスタロッチー研究の新しい動向を、次のように総括している。「今世紀の終わりにおける批判版全集の完成とともに、デーユングによってしばしば警告された全業績への「資料的」な道すじが開かれ、索引版やCD-ROMとともに「技術的」な、そして影響史的研究によって「方法的」な道すじが開かれるだろう。そのとき、ペスタロッチーの全業績に対する新しい、包括的問いを、彼の時代の文脈におくための前提条件が整ったといえるだろう」と。

わが国においても数年来の大事業であった『ペスタロッチー・フレイベル事典』（日本ペスタロッチー・フレイベル学会編、玉川大学出版部）が、いよいよ1996年11月に刊行される。ペスタロッチー研究は、彼の思想をただ受容し、それをもって現在の教育問題に警鐘を鳴らすための「道具」的段階ではなく、ペスタロッチーが研究しようとしたものを研究する、いわば批判的段階にはいったといえよう。このためには、社会思想史、経済思想史

等、教育学以外の他の学問分野の水準をふまえた総合的視野が必要とされる。他の学問分野と関連づけながら、いかにペスタロッチー研究の独自性を切り開いていくか、その方法論が問われているといえよう。ふたたびペスタロッチーを「偶像化」することなく、研究しうる方法論の確立をめぐる議論が、今もつとも必要とされているのである。

[注]

- 1) Tröhler, D.: Hauptströmungen und Tendenzen der Schweizer Pestalozzi-Forschung (in: Pädagogische Rundschau, 1996, 1-2).
- 2) Martin, E.: J.H. Pestalozzi und die alte Landschaft Basel, Liestal, 1986.
- 3) Grunz-Stoll, J. (Hrsg.): Pestalozzis Erbe, Bad Heilbrunn, 1987.
- 4) Stadler, P.: Pestalozzi, 1. Teil, Zürich, 1988, 2. Teil, Zürich, 1993.
- 5) Osterwalder, F.: Pestalozzi-ein Pädagogischer Kult. Pestalozzis Wirkungsgeschichte in der Herausbildung der modernen Pädagogik, Weinheim, 1995.
- 6) Winter, D.: Pestalozzi-Ein Fest für die Nation, Diss. 1995.
- 7) Friedrich, L., Springer, S.: J.H. Pestalozzi: Sämtliche Werke und Briefe, Registerband I, Zürich, 1994.
- 8) Friedrich, L., Springer, S.: J.H. Pestalozzi: Sämtliche Werke und Briefe auf CD-ROM, Hrsg. Pestalozzianum Zürich, 1994.